

日蓮大聖人御書全集

しじょうきんごどのごへんじ

四糸金吾殿御返事

ほけきようへいほう こと

(法華経兵法の事)

新版
1622
く
1623

しじょうきんごどのごへんじ ぼけきょうへいほう こと

四条金吾殿御返事 (法華経兵法の事)

こうあん ねん がつ にち さい しじょうきんご

弘安 2 年 ('79) 10 月 23 日 58 歳 四条金吾

せんど ごうてき 取 合 おんふみたま くわ み

先度、強敵ととりあいについて御文給いき。委しく見ま

そうろう てきじん 狙 たま

いらせ候。さてもさても、敵人にねらわれさせ給いしか。

さきざき ようじん 健 気 ほけきょう しんじん

前々の用心といい、またけなげといい、また法華経の信心つ

ゆえ なん ぞんめい たま

よき故に、難なく存命せさせ給い、めでたし、めでたし。

そ うん 窮 へいほう 要 かほう 尽

夫れ、運きわまりぬれば兵法もいらす、果報つきぬれば

しよじゆう 従 せん うん 残 かほう 控

所従もしたがわず。詮ずるところ、運ものこり、果報もひか

ゆえ 殊 ほけきょう ぎょうじゃ しよてんぜんじんしゅご

ゆる故なり。ことに法華経の行者をば諸天善神守護すべき

由 ぞくるいほん せいじよう 立 たま いたさい しゅごしん しょてん

よし、囑累品にして誓状をたて給い、一切の守護神・諸天

なか われ まなこ み しゅご たも にちがつてん

の中にも我らが眼に見えて守護し給うは日月天なり。いか

しん につてん さき まりしてん

でか信をとらざるべき。ことにことに、日天の前に摩利支天

につてん ほけきよう ぎようじや しゅご たま

まします。日天、法華経の行者を守護し給わんに、所従の

まりしてん せん 捨 たも じよほん ととき みようがつてんし ふこう

摩利支天尊すて給うべしや。序品の時、「名月天子・普香

てんし ほうこうてんし しだいてんのう けんぞく よろず てんし とも

天子・宝光天子・四大天王、その眷属の万の天子と俱なり」

れつぎ たも 摩利 支てん よろず てんし うち

と列座し給う。まりし天は万の天子の内なるべし。もし内

じやく

になくば、地獄にこそおわしまさんずれ。

こんど だいじ てん 守

今度の大事は、この天のまぼりにあらずや。彼の天は

か てん

けんぎよう

きへん

与

くだ

にちれん

しゆだい

劍形を貴辺にあたえ、ここへ下りぬ。この日蓮は首題の

ごじ

なんじ

授

ほけきようじゆじ

しゆご

うたが

五字を汝にさずく。法華經受持のものを守護せんこと、疑

摩利支てん

たも

いつさいしゆじよう

いあるべからず。まりし天も法華經を持つて一切衆生をた

たも

りんぴようとうじやくかいじんれつさいぜん

もん

ほけきよう

い

すけ給う。「臨兵闘者皆陣列在前」の文も法華經より出で

ぞっけん

きようしよ

じせ

ごごん

ししよう

ごうとう

と

たり。「もし俗間の経書、治世の語言、資生の業等を説か

みなしようほう

じゆん

んも、皆正法に順ぜん」とは、これなり。

ごうじよう

だいしんりき

出

たま

これにつけても、いよいよ強盛に大信力をいだし給え。

わ

うんめい 尽

しよてん しゆご 無

恨

我が運命つきて、諸天守護なしとすらむることあるべから

ず。

まさかど

兵

な

へいほう

だいじ

極

将門はつわもの名をとり、兵法の大事をきわめたり。

おうめい

負

樊

噲

張

良

由

無

されども王命にはまけぬ。はんかい・ちようりようもよしな

し。

こころ

たいせつ

にちれん

祈

もう

ふしん

ただ心こそ大切なれ。いかに日蓮いのり申すとも、不信な

濡

火口

ひ

打

掛

らば、ぬれたるほくちに火をうちかくるがごとくなるべし。

励

ごうじよう

しんりき

出

たも

過

ぞんめい

はげみをなして強盛に信力をいだし給うべし。すぎし存命

ふしぎ

思

たま

不思議とおもわせ給え。

へいほう

ほけきよう

へいほう

用

たも

しよよ

なにの兵法よりも法華経の兵法をもちい給うべし。「諸余

おんてき

ざいめつ

きんげん

虚

へいほう

の怨敵は、みな摧滅す」の金言むなしかるべからず。兵法・

けんぎよう

だいじ

みようほう

い

しんじん

たま

劍形の大事もこの妙法より出でたり。ふかく信心をとり給

おくびよう

かな

そうろう

きようきようきんげん

え。あえて臆病にては叶うべからず候。恐々謹言。

じゆうがつにじゆうさんにち

十月二十三日

にちれん

かおう

日蓮

花押

しじようきんごどのごへんじ

四条金吾殿御返事